此ノ点ノ正義
多個ナルベシ

盡クルヿナキモノトス

戰時ノ金融市場ニ於テハ以上ノ三者ノ如ク新ニ増加セル國富ヨリ供給ヲ受クルノミナラズ資本ノ變換ヨリシテ其供給ヲ受クルモノナリ平時ニ於テハ固定資本ハ容易ニ流動資本ニ變スルヿナキモノナリト雖戰時ニ於テハ國家ノ必要上直ニ之ヲ流動資本ニ變ゼシムルコトアリ即農家ガ其有スル馬匹ヲ軍用ニ徴發セラルヽガ如キ其一例ナリ殊ニ今回ノ戰争ニ於テハ多數ノ軍馬ヲ要セシヲ以テ政府ハ之ヲ農家ヨリ徴發セリ為メニ農家ハ一時ニ其固定資本ヲ流動資本ニ變ズルコトヲ得タリ農家ニシテ再ビ之ヲ固定センヿヲ勉ムルモ今日ニ於テハ容易ニナスヿ能ハザルナリ何トナレバ農家ノ欲スル固定ハ馬匹ナリ然ルニ我牧畜業ハ未ダ大ニ進歩セザルヲ以テ農家ニ對シ一時ニ多數ノ馬匹ヲ供

[illegible]

盡クルコトナキモノトス

戰時ノ金融市場ニ於テハ以上ノ三者ノ如ク新ニ増加セル國富ヨリ供給ヲ受クルノミナラズ資本ノ變換ヨリシテ其供給ヲ受クルモノナリ平時ニ於テハ固定資本ハ容易ニ流動資本ニ變ズルコトナキモノナリト雖戰時ニ於テハ國家ノ必要上直ニ之ヲ流動資本ニ變ゼシムルコトアリ即農家ガ其有スル馬匹ヲ軍用ニ徴發セラルヽガ如キ其一例ナリ殊ニ今回ノ戰爭ニ於テハ多數ノ軍馬ヲ要セシヲ以テ政府ハ之ヲ農家ヨリ徴發セリ為メニ農家ハ一時ニ其固定資本ヲ流動資本ニ變ズルコトヲ得タリ農家ニシテ再ビ之ヲ固定センコトヲ勉ムルモ今日ニ於テハ容易ニナスコト能ハザルナリ何トナレバ農家ノ欲スル固定ハ馬匹ナリ然ルニ我牧畜業ハ未タ大ニ進歩セザルヲ以テ農家ニ對シ一時ニ多數ノ馬匹ヲ供

別紙甲

給スル能ハザレバナリ若シ又供給シ得ルトスルモ今日ノ如キ場合ニ於テハ從来二頭飼養セシモノハ一匹ニテ其用ヲ辨ゼシコトヲ勉ムルガ故ニ曩キニ流動資本ニ變セシモノハ全部ハ決シテ直チニ再ビ馬匹ニ固定セラルヽコトナシ而シテ此種ノ資金ハ或ハ國庫債券ノ拂込トナリ或ハ増税ノ上納トナリテ遂ニ金融市場ヲ補助スルニ至ルモノトス斯クシテ農家ノ財産ハ馬匹ヨリ國庫債券ニ變ジ政府ハ國庫債券ヲ以テ農家ノ馬匹ヲ買入レシコトヽナルナリ由テ國庫債券ノ發行ハ此一事實ノミニテモ發行額丈ケ市場ニ影響ヲ與ヘザルヲ當然トス

以上ハ單ニ戰時經濟界ノ趨勢ヨリ金融市場自体ニ流動資本ヲ増加シ金融ヲ調和スベキ理由ノ一丁ヲ記スル

ニ過ギズ更ニ國庫債券ノ拂込及増税ニ要スル資金ノ出所及其方法ヲ研究シ進ンデ軍費ノ出所及其使途ヲ精査スルニ於テハ金融市場ノ緩和セルノ理由一層明白ナルヲ得ン

（二）國庫債券拂込資金ノ出所

商工業ノ現状ハ開戰前ト大差ナク其金融市場ニ訴フル所ノ資金ハ寧ロ増加ヲ示スモ減少ヲ證セズ然ルニ政府ハ已ニ國庫債券ノミヲ以テ一億一千七百万圓ノ資金ヲ吸收セシニ拘ハラズ市場ハ些カモ影響ノ跡ヲ示サヾルモノトスレバ必ズ市場ハ新ニ資金供給ノ道ヲ得シニアラズンバ國庫債券拂込金ノ全部市場ヨリ出デシニアラザルベシ

先ヅ國庫債券拂込資金ノ出所ヲ究ムルニ左ノ三者アルモノヽ如シ

一、金融市場

二、金融市場以外

三、拂込中ニ於ケル貯蓄

我國ノ如キ金融機関ノ未ダ充分ニ発達セザル國ニ於テハ金融市場以外ニ現存スル資金少カラザルナリ近年銀行制度大ニ発達シ又郵便貯金法ヲ改良セリト雖尚ホ銀行ノ設ケナク郵便局ヲ置カザルノ地方少カラズ又此種機関ノ設ケアルモ未ダ之ヲ利用スルノ道ヲ知ラザルモノ少カラザルベシ夫等ノ地方ニ於テモ又人民ニ於テモ餘財ヲ有セザルニアラズ其有スル貯蓄ハ平時之ヲ金融機関外ニ運用セルニ過ギズ即其有スルモノハ之ヲ所屬町村ニ利殖セルニアラズンバ自ラ手許ニ保管セルモノナリ故ニ此種人士ノ國庫債券ヲ引受クルモ金融市場ハ為

メニ影響ヲ蒙ラザルノミナラズ却ッテ資金ノ供給ヲ受クルコトヽナルベシ之レガ為メ其地方ニ於ル資金ノ融通上ニハ一時影響ヲ與フベキモ銀行ノ預金及郵便貯金ハ更ニ影響ヲ蒙ラザルベシ

此種餘財ノ市場ニ供給セラルヽノ多少ハ公債ノ種類ト券面金額ノ多寡トニ由ルモノトス、若シ先般来発行セル國庫債券ノ如ク愛國心ニ訴ヘタル公債ニシテ小券面ノモノヲ以テセシカ此種財源ヨリ来ル所少カラザルベシ雖然此種財源ハ涸渇シ易キヲ以テ幾回ノ発行ニモ望ムベキモノニアラザルナリ

拂込中ニ於ケル貯蓄モ亦金融市場ニ影響ヲ及ボサザルモノトス拂込中ノ貯蓄ハ其発行公債ニシテ愛國的ナル限リ若クハ利子ノ高歩ナル時ニ於テ特ニ著シク増加

ノヨ
例実

スルノ傾向ヲ有ス、戦時発行スル公債ノ多クハ愛國的ニシテ而カモ利子低廉ナラザルヲ以テ此種ノ資源ハ決シテ輕々ニ看過スベカラザルモノナリ、例ヘバ高利ノ愛國公債ヲ小額面ニテ発行セシカ平時貯蓄ノ習慣ナキ小額ノ俸給ニ衣食セルモノ若クハ年小額ノ所得ナル農民モ進ンデ之ニ應シ若クハ巳ムヲ得ズ之ニ應シ其應ズルヤ生活費ヲ節約シテ之ガ拂込ヲ了スルニ至ルベシ

金融市場ヨリ拂込ムモノト雖資金ニ對スル新需要トナルコトナク單ニ商工業ニ運用スベキモノヲ以テ之ニ振換ユルニ過ギザルコトアリ此場合ニ於テハ商工業ハ為メニ影響ヲ蒙ルモ銀行ノ貸出ハ従前ト異ナルコトナクシテ商工業ノ實状ヲ証セザルベシ

アダムス博士曰

別紙

ク政府ガ金融市場ニ於テ高利ノ公債ヲ募集スルヤ其

ク政府ガ金融市場ニ於テ高利ノ公債ヲ募集スルヤ其以前殆ド利潤ヲ收ムルコトヲ得ザル産業ハ之ヲ廢止シ人民需要ノ變化ニ由リ利潤ノ見込ナキ産業ハ一時之ヲ中止シ其之ガ運轉ニ要スベキ資金ヲ以テ公債ノ募集ニ應ズルニ至ルベシト

戰時ニ於テハ軍用品ニ向ツテ大ニ需要ヲ増加スルニ至ルベキヲ以テ軍用品ノ製造家及之ニ關聯セルモノハ頓ニ隆盛ヲ來スベシト雖需要變化ヨリ來ル産業機關ノ變更ハ運轉上資本ヲ浪費セシムルヲ以テ一國ノ生産力ヲ減殺スルノ傾向アリ加フルニ軍需品ハ悉ク之ヲ内地ニ求ムルコトヲ得ザルヲ以テ戰時ノ經濟界ハ概シテ畏縮スルヲ常トス我國現時同盟銀行ノ貸出平時ニ比シ減少セザルノミナラズ増加ノ傾向ヲ現ハセルヲ以テ

直ニ高工業ノ影響ヲ蒙ラザルモノト断言スルハ少シク軽卒ト云ハザルベカラズ物價ノ關係以外ニ於テモ國庫債券ヲ担保ニ貸出セルモノアルコトヲ忘ルベカラズ國庫債券担保ノ貸出ハ貸出總高ニ於テ増加ヲ示スモ商工業トハ何等ノ関係アルニアラズ唯借入金ヲ以テ國庫債券ニ應ジタルコト[illegible]示スモノニ過ギズ又此種ノ國庫債券引受ハ預金[illegible]ヘザルナリ要スルニ今日迄ノ國庫債券[illegible]全部金融市場ヨリ供給セシモノニアラズ又金融市場ヨリ供給セシモノモ需要ノ変化ヨリ来ル遊金ヲ運轉セルモノアルガ故ニ金融界ノ受クベキ影響ノ範囲ハ大ニ縮少セルモノトス

（三）増税ノ收入金ト金融市場トノ關係

直ニ商工業ノ影響ヲ蒙ラザルモノト断言スルハ少シク輕率ト云ハザルベカラズ物價ノ關係以外ニ於テモ國庫債券ヲ担保ニ貸出セルモノアルコトヲ忘ルベカラズ國庫債券担保ノ貸出ハ貸出總高ニ於テ増加ヲ示スモ商工業トハ何等ノ関係アルニアラズ唯借入金ヲ以テ國庫債券ニ應ジタルコトヲ示スモノニ過ギズ又此種ノ國庫債券引受ハ預金ニ影響ヲ與ヘザルナリ要スルニ今日迄ノ國庫債券拂込金ハ其全部金融市場ヨリ供給セシモノニアラズ又金融市場ヨリ供給セシモノモ需要ノ變化ヨリ來ル遊金ヲ運轉セルモノアルガ故ニ金融界ノ受クベキ影響ノ範囲ハ大ニ縮少セルモノトス

(三) 増税ノ收入金ト金融市場トノ關係

租税ハ其種類ト徴收方法ノ如何トニ由リ金融市場ニ及スベキ影響ノ範囲ヲ異ニスルモノトス、金融市場ニ最モ密接ノ関係ヲ有スル商工業者ニ對シ租税ヲ賦課シ若クハ其税率ヲ増加セシカ金融市場ハ為メニ

取調中

(三) 増税ノ收入金ト金融市場トノ關係

租税ハ其種類ト徴收方法ノ如何トニ由リ金融市場ニ及スベキ影響ノ範囲ヲ異ニスルモノトス、金融市場ニ最モ密接ノ関係ヲ有スル商工業若ニ對シ租税ヲ賦課シ若クハ其税率ヲ増加センカ金融市場ハ為メニ影響ヲ蒙ラザルヲ得ズ均シク金融市場ニ関係アルモノニ課スルモ其課税法ニシテ定時法ニ依ラズンハ其受クベキ影響ヤ論ズルニ足ラザルナリ曩キニ實施セラレタル非常特別税法ヨリノ收入類二千万圓ハ悉ク定時法ニ由リ徴收セシモノニアラズ又定時法ニ由レルモノモ直接金融市場ニ関係アルモノ、負擔至テ多カラザルナリ試ニ右特別税ノ主要ナルモノニ就キ各別ニ少シク研究ヲ加ヘン

第一地租　徴收ハ定時收入法ヲ以テスト虽其負担

者ノ大部分ハ直接金融市場ニ関係ヲ有セサル農民トス彼等ハ主トシテ現ニ自ラ運轉セル若クハ手許ニ有セル在来ノ貯蓄及戦時ノ節約若クハ将来ノ收入ヲ以テ上納セリ

第二営業税、收入法ハ定時法ニシテ其負擔者ハ金融界ニ関~~税~~係セルモノナリト雖其額未タ多カラザルナリ

第三所得税、定時ノ收入法ニ由ルモノニシテ金融市場ニ関係セル負担者少カラザルモ金額亦多カラザルナリ

第四酒税、同前

第五砂糖税、直接ノ負擔者ハ金融市場ニ関係ヲ有スルモノナリト雖其徴收セラルヽハ製造家若

クハ保税倉庫ヨリ買受ケ之ヲ引取ルノ際ナルヲ以テ増税ノ為メ金融市場ノ蒙ルヘキ影響ハ豫算額ノ示スカ如ク多キモノニアラス

第六　醤油税、徴收ハ定時法ニシテ負擔者ハ金融市場ニ関係セルモノナリト雖増税額至テ少額ナリ

第七　登録税、不定時ノ收入法ニ由レルモノニシテ而カモ其負擔者ハ金融市場ニ関係セルモノ多シ

第八　毛織物及石油消費税、直接ノ負擔者ハ金融市場ニ関係セルモノナルモ砂糖消費税ト同シク定時ノ收入法ニ由ラサルヲ以テ金融市場ニ及スヘキ力至テ薄弱ナリ

第九　関税、　同前

第十 煙草專賣、直接負擔者ハ商人（ナリト雖）其收入ハ毛織物及砂糖税等ヨリモ一層不定時ナリトス

第十一 其他諸税中或ハ定時法ニ由リ或ハ金融界ニ関~~税~~係セルモノハ負擔ニ帰セルモノアリト雖モ其金額何レモ少額ニシテ論ズルニ足ラザルナリ

斯ク逐次研究シ来ルトキハ性質上ヨリ若クハ徴收法ヨリシテ著シク金融界ニ影響ヲ及スベキモノ少ナシ然ルニ況ンヤ十月末迄ニ於ル收入額ハ増税全体ニ於テ尚ホ二千萬圓ニ過ギザルニ於テオヤ

以上論究セシ所ハ金融市場ノ影響ヲ受クベキ原因ニシテ其受クベキ影響ノ範囲至テ狭少ナルヿヲ論ゼシニ過ギズ範囲ハ狭少ナルモ已ニ影響ヲ與フベキ原

因即資金ニ對スル新需要ノ現存スルハ争フベカラズ然ルニ之ガ為メ別ニ著シキ影響ヲ見ザルハ他ニ之ヲ相殺スベキ理由即資金ヲ供給スルモノアルニ由ラズンバアラズ

（四）軍事費ノ着所

政府ガ或ハ國庫債券ヲ發行シ或ハ増税ヲ行フハ軍事費ヲ要スルガ為メナリ而シテ軍事費ハ結局軍用品ノ購入及軍事関係者ノ俸給若クハ賃銀トシテ消費セラルヽモノナリ故ニ戦時ニ於テ政府ハ一方ニハ大ニ資金ノ需要者ナリト雖他方ニハ又大ナル供給者ナリトス其需要スルヤ一時ニ巨額ノ資金ヲ吸收スルヲ以テ世人ノ注意ヲ喚起スルモ其支出スルヤ幾百千度ニ之ヲ排出スルヲ以テ往々世人ノ注意ヲ逃レ易シト雖一度其吸收セシ

資金ヲ再ビ市場ニ供給スルニ於テハ其供給ノ為メ必迫セル市場ハ忽チ平穏ニ復スルヲ當然トス況ンヤ市場ニ需要ヲ訴フル以前ニ於テ已ニ市場ニ巨額ノ資金ヲ供給シテ一時ニ巨額ノ借入ヲナスヨリ生ズル市場ノ動揺ヲ豫防セルニ於テオヤ先ツ今日迄ノ軍事費ヲ見ルニ其額左ノ如キ巨額ニ上レリ

四月迄	九七、八九三千圓
五月	三一、五六八
六月	三六、九二二
七月	四六、六〇七
八月	七七、四六四
九月	五二、二二七
十月	五七、九七二

計　　四〇八、六五六

右ノ四億圓ニシテ悉ク内國ニ供給セルモノトスルモ之ヲ市場ノ供給高一億三四千萬圓ニ對照スルハ非常ノ供給超過ト云ハザルベカラズ勿論右ノ支出金額ハ全部市場ニ供給セザルノミナラズ又内地ニノミ支給セラレシニアラズ其使途ハ左ノ三者ナルガ如シ

一、金融市場

二、金融市場以外

三、國外

輓近經濟思想大ニ發達セシヲ以テ軍國ノ爲政家ハ何レモ其軍費ノ支出ヲ金融市場ニ供給シ勉メテ金融市場ニ於ル資金ノ豐富ヲ計ルニ至レリト雖戰争ハ一時ニ或種ノ勞働及商品ニ對シ急激ナル需要ヲ起スヲ以

テ軍事費ノ全部ヲ自國ノ金融市場ニ供給スルヿノミヲ計ルヿ能ハス或ハ市場外ニ逸セシメ或ハ國外ニ散セシムルノヤムヲ得ザルモノナリ外國ニ逸セルモノハ之ヲ吸收スルヿ頗ル困難ナリト雖今回ハ満韓ヲ戦地トナセルヲ以テ外國ニ散セシモノヽ一部モ亦之ヲ回收スルヿ難カラズ已ニ幾多便法之ガ為メニ設ケラレタリ又内地ノ市場外ニ逸セシモノヽ如キハ或ハ公債ノ引受トナリ或ハ郵便貯金トナリ漸次市場ニ復帰スルノ傾向アリ特ニ小券面ノ公債ヲ発行スルニ於テ其傾キ一層著シキモノトス勿論一度散布セシモノヽ回收ハ公債ノ拂込租税ノ上納金ノ如ク急速ナル能ハザルモ軍事費ノ支出ハ前表ノ如ク毎月頗ル巨額ニシテ而カモ公債ノ發行ニ先チ已ニ數千万圓ノ軍事費ヲ支出セシ

満韓ニ
ハ芝アノ如ク
ニ見ルヤ

ヲ以テ市場ハ公債ノ拂込ニ先チ續々政府ヨリ支出セシ軍事費ヲ回收シ居レルモノヽ如シ今更ニ軍事費ノ拂渡先別ヲ見ルニ左ノ如シ

内地拂	二六二、九四〇、一七一円[illegible]
清韓地方拂	一一四、〇二三、八三七[illegible]
其他海外拂	二三、六九六、二一五[illegible]

右ノ中海外拂ハ全然内地ノ市場ニ吸收スル能ハザルモノニシテ清韓地方拂ハ前記ノ如ク多少回收シ難キニアラザルモ其大部分ハ回收困難ナルベク内地拂ノ中ニモ海外ニ拂出セシモノアルベク（例ヘバ内外商人ノ手ヲ經テ外國品ヲ購入シ其代金トシテ支拂ヘルモノヽ如キ）又市場外ニ逸出シテ金融界ニ流入セザルモノアルベキモ實際二億六千万圓中ノ大部分ト清韓地方拂ノ一部ハ市場ニ流入シ又

日本銀行

トナリ或ハ郵便貯金トナリ漸次市場ニ復帰スルノ傾向アリ特ニ小券面ノ公債ヲ発行スルニ於テ其傾キ一層著シキモノトス勿論一度散布セシモノヽ回收ハ公債ノ拂込租税ノ上納金ノ如ク急速ナル能ハザルモ軍事費ノ支出ハ前表ノ如ク毎月頗ル巨額ニシテ而カモ公債ノ發行ニ先チ已ニ數千万圓ノ軍事費ヲ支出セシ

満韓之し
ハ当ノ分
ニ見ルヤ

ヲ以テ市場ハ公債ノ拂込ニ先チ續々政府ヨリ支出セシ軍事費ヲ回收シ居レルモノヽ如シ今更ニ軍事費ノ拂渡先別ヲ見ルニ左ノ如シ

内地拂	二六二、九四〇、一七一円	六、（錢）五六
清韓地方拂	一一四、〇二三、八三七	二、八五
其他海外拂	二三、六九六、二一五	〇、五九

右ノ中海外拂ハ全然内地ノ市場ニ吸收スル能ハザルモノニシテ清韓地方拂ハ前記ノ如ク多少回收シ難キニアラザルモ其大部分ハ回收困難ナルベク内地拂ノ中ニモ海外ニ払出セシモノアルベク（例ヘバ内外商人ノ手ヲ經テ外国品ヲ購入シ其代金トシテ支拂ヘルモノヽ如キ）又市場外ニ逸出シテ金融界ニ流入セザルモノアルベキモ實際二億六千万圓中ノ大部分ト清韓地方拂ノ一部ハ市場ニ流入シ又

別紙
丙印

流入シ得ベキモノト推定スルヿヲ得ベシ果シテ然ラバ之ヲ市場ノ供給高即政府ノ需要高ニ對照スルニ於テハ市場ノ動揺セザル所以ヲ知ルヿヲ得ン

更ニ世人ガ漠然ト金融市場ヨリ供給セルモノトセル公債及増税ノ收入額ヲ軍事費支出總額ニ對照スレバ其邊ノ消息一層明白ナルヲ得ベシ

名称	金額	軍事費總額ニ対スル割合
國庫債券拂込額	一一七、四四六、二五一円	二割、八八
外債	八六、八三四、一七〇	二、一七
軍用切符	六三、二〇二、五四〇	一、五七
日本銀行借入金	五八、五〇〇、〇〇〇	一、四六
増税	二〇、六二九、〇〇〇	〇、五一
基金繰入	二〇、七四二、一〇六	〇、五二

其他　三三、三〇二、一四六　〇、八九

軍事費總支出額　四〇、六五六、二二三　一〇、〇〇

是ニ由テ之ヲ見レバ世人ノ算定ニ由ルモ市場ノ供給高ハ總軍費ニ對シテ僅ニ三割四分ニ過ギズ而シテ市場ノ軍費ノミヨリ吸收セシ高ニテモ決シテ右金額ニ劣ルコトナカラン是レ實ニ金融界ノ引締ルコト能ハザル所以ナリトス

（五）括論

以上論ゼシ所ヲ簡明ニ表示スレバ左ノ如シ

戰爭ノ爲メ金融市場ニ於ケル資金需要ノ増加
- 國庫債券ノ拂込
- 増税

資金供給ノ増加
- (1) 勤儉貯蓄ニ由ル富ノ増加ヨリ來ル供給
- (2) 固定資本ノ變化ヨリ來ル供給

日本銀行

(3) 需要變化ヨリ来ル供給

(4) 軍事費ノ支出ヨリ来ル供給

（戰争ノ為メ金融市場ニ於ケル資金ノ需給ヲ）

更ニ正確ニ表示スレバ左ノ如ク云ハザルベカラズ

（金融市場ヨリ）政府資金需要高＝（國庫債券ノ金融市場外引受）＋（増税ノ市場外ニ存セシ貯蓄等ヨリ来ルモノ）

（金融市場ヘ）政府資金供給高＝軍事費－（海外拂＋清韓地方拂ノ大部＋内國拂ノ一部）

以上ノ如ク研究シ来ル時ハ戰争ノ為メ市場ハ資金ノ需要増加セリト云ハンヨリハ寧ロ供給ノ増加セルモノト云ハザルベカラズ是レ市場ハ常ニ緩漫ニシテ銀行ハ預金ノ多キニ苦メル所以ナリトス世人ハ國庫債券ノ發行ト増税ノ二事實ノミヲ見テ金融界ノ動揺セザルヲ怪ムハ需要ノ一面ノミヲ見テ供給ヲ忘レタルニ由ルモノトス

以上ハ金ヲ今日迄ノ現象ヲ解釋セルモノニシテ之ヲ

以テ今後ヲ類推スルヲ得ズ今後ニ関シテハ大ニ其事情ヲ異ニスルモノアルガ如シ何トナレバ國庫債券ノ一部ヲシテ従来ノ如ク市場外ニ引受ケシムルコトヲ得ベキヤ否、又軍費ハ今日迄ノ如キ割合ヲ以テ内地ニ散ズルコトヲ得ベキヤ否戦局ノ進ムニ従ツテ商工業ハ今日ノ状況ヲ維持シ得ルヤ否、今後國民ノ生産力ハ減殺サルヽガ如キコトナキヤ否等ノ諸問題ノ存スルアリテ従前トハ大ニ異ナル所アレバナリ

日本銀行

日本政府

日本銀行

⑥

第一回國庫債券　一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
内東京大阪銀行會社所有即チ
賣却スレハ損失アルヲ以テ市
場ニ出サヽル分
凡ソ　五、〇〇〇、〇〇〇円（實数）

第二回國庫債券　一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
内同上　三五、〇〇〇、〇〇〇円（實数）

第三回國庫債券　八〇、〇〇〇、〇〇〇円
内

二八、〇〇〇、〇〇〇円（第二回分ニ比例シテ算出セル見込）

合計　二八〇、〇〇〇、〇〇〇円（来年二月ニハ繰上拂込マルヽモノト假定ス）

内　六八、〇〇〇、〇〇〇円

其他ニ賣物トナラサルモノ

一三、〇〇〇、〇〇〇円

アリト見込ミ

計　八〇、〇〇〇、〇〇〇円ト見込ム

差引　二〇〇、〇〇〇、〇〇〇円

差引　二〇〇、〇〇〇、〇〇〇円

興業銀行カ曽テ第一回一億万円ニ對シ一ヶ月間貳円ノ價格引上ケ方ヲ維持シタル時ノ額面ハ七十二万円ナリキ故ニ二億万円ニ對シテハ一ヶ月百四十四万円ヲ要スル割合トナル假リニ第四回國庫債券募集期ヲ来年三月末トシ本年十一月ヨリ来年三月マテ五ヶ月間既発國庫債券ノ價格ヲ二円引上ケルニハ百四十四万円ノ五倍即チ凡ソ七百万円ヲ

買入資金トシテ要スル計算トナル假リニ國庫債券ノ現價即チ百円ニツキ八十六円ヲ夫レヨリ二円高即チ八十八円ニテ持堪フルモノトセハ来年度發行ノ時價ハ八十八円ニテ可ナルベク何人モ之ニ異議ヲ挾ムコト能ハサルベシ随テ銀行ヘノ手数料モ千分ノ三ニ復旧セラレテ可ナルコトトナル幸ニ八十八円ニ引上クルコトヲ得ハ来年ノ発行高ヲ四億万円ト見積レハ

之ヲ八十六円ニテ発行スルニ比スレハ其益
八、〇〇〇、〇〇〇円トナル之ヲ
七、〇〇〇、〇〇〇円ノ買入資金ト比スルニ
一、〇〇〇、〇〇〇円ノ益ヲ生ス
又手数料ヲ復旧スルモノトセハ千分ノ七ヲ
益シ此ノ益四億万円ニツキテハ
二、八〇〇、〇〇〇円トナル
合計三、八〇〇、〇〇〇円ヲ金銭上益スルノ
ミナラズ証券價格ヲ八十八円ニ維持ス
ル為メ内外ノ信用ヲ高メ且ツ証券発

行ニ関シ従前ノ如キ紛擾ヲ避クルコトヲ得ヘシ而シテ買収シタル七百万円ノ証券ハ之ヲ軍人遺族ニ交付セラルルノ用途ニ向ケラレナハ新ニ発行シテ公債総額ヲ増加セラルルヨリモ得策ナルヘシ

故ニ本月頃ヨリ来年某四国国庫債券御発行マテ凡ソ七百万円ヲ限度トシ之ヲ以テ証券価格ヲ維持スルノ策ヲ秘密ニ講セラルルハ緊要ナリト信ス

ヲ秘密ニ講セラルルハ緊要ナリト信ス

八、

書啓仕候、
先以て尊堂愈々御清適、今般授爵の
大命を拝せられ候段謹而奉祝賀候、
六分利付英貨公債償還事務も何等故障
なく進行致居り御同慶に奉存候、詳細は監
督役よりの公信にて御承知之通、昨廿四日迄
当紐育代理店へ償還請求の為め持込高
四百六拾弐万壱千参百磅に有之、廿三日迄倫敦
代理店へ持込高参百拾九万四千九百磅を合計
致候へば世間残存額百七拾八万参千磅と相成右
残額悉皆紐育にて支払を受くるとして尚参百
参拾四万五千弗の政府寄託金を当代理店に

剰す計算ニ有之、本年中・利拂基金ハ既ニ倫敦よりの回送を仰ぐの要なきかと存居申候、目下毎日の持込高拾萬磅内外ニ候ヘハ漸々減少致すべく本月中ハ償還済ニ致候ハ或ハ六かしきかとも存せられ申候、曾て監督役より上申致候通小生十月上旬よりミチー銀行へ見学の段若て迄同行頭取ミチルマン氏態々監督役ニ諮問の上同行は外国政府、其他大会社の資金を運用致居り之ニ対しては絶対の秘密を守るの必要有之自行の行員と雖も各一小部局の業務以外ニハ知らしめず多年使用の上信用する者あらざれは容易に部局の轉勤も許さゞる程なれば各課を素通りの積ならば何時たりとも差支な

きも甚だしく見学も相成らず方々御辞り致すより外無之との事に小生は大に失望致候、令息武夫様は小堅様と御相談の上同様に第一へ御入りの筈に候へ共之亦拒絶せられ候は残念に御座候、然し令息はニツフ氏の配慮により市俄古第一銀行へ御入りに相成る事に略々相定まり申候、小生は小野監督役の指図により来月上旬よりワシントン市大蔵省内に凡そ三週間の見込にて見学仕り其後はボストン市のシヨウモツト銀行か或は市俄古第一銀行へ見習に入込む筈に相成居申候、代理店の方は公債の償還、償還基金、其運用等業務の多き時季に就学致候事とて小生の為めには尠からず修養に相成りたる

様御自信被成候、今後は外部の研究に意を注ぎ、僅少の期間内出来得る丈け習得被成度心組みに御座候、幸ひ御身体頗る壮健、元気亦人後に落ちざる積りに候へば御休心被下度之旅に候、

先般函館大火、本邦出張所も焼失被成候趣驚入申候、嘸甚の御配慮一方ならざる御儀と奉恐察候、

副総裁満州御出張の趣拝承仕り当時に比し同地は大分秩序立ち、萬一の危険など無之とは信じ候へ共、途中の御労苦推察に餘り在り候、何卒御無事御巡回の程祈居申候

當市金融市場も案じ候程の緊縮は無之、本邦

5.

ル割合に収獲資金潤澤なるやうにて送金割引歩合も左程騰貴致さずコール、ローンは三分乃至五分の間を昇降致居り、タイム、マネーは五分半乃至六分に居申候、紐育市債景氣よく賣出ニ相成候以來一般投資者を誘起し諸債券上向、日本公債も少しく騰貴致申候、

今回の祝賀を兼ね近状御報申上度如此ニ御座候

匆々敬具

明治四十年九月廿五日

結城豊太郎

松尾総裁殿

高橋副総裁殿

侍史

[illegible]

一　右之趣申上候ニ相違無御座候

若[illegible]候

三十九年十一月十二日喜右衛門

つしつに参へらし之出勤

一 五俵之一ツ事

一 右俵ニ無滞、皆合石の

俵備出来ニ付

右ハ御請書ニテ御差出ス

附様成候ニ上ハ申候

御議申し候

一 右ニ付其後御役儀

換くす

一　立下利共違ろ候筈
換ノ事
つゝしシゲケートヒノ也委ヲ
納　龍ヲ時ノ擬ヲ付ツコト
手ハ時ノ撥ヲ手ノ上ハ勢
サノ毛ヲ
一　悔如ノ理ヲハコト
加へ　案定ノ上ハせんツ毛不ゞ
お張えへし

秘

⑧

[illegible]

明治三十九年四月二日

理財局長

大臣

次官

統一公債ニ関スル件

別紙ノ通リ氏書面ノ要旨ハ、[illegible]、法文、[illegible]

[illegible]

秘

⑧

尚本件ハ整理委員会ニテ研究ノ積ニ候　勝田

明治三十九年四月十三日　國債整理局長

理財局長

大臣

次官

統一公債ニ関スル件

別紙ワヒッワヒ氏書面ノ要旨ハ一定ノ換算率ニ依リ磅、弗、法及馬克ヲ以テ仕拂ヲ為スヘキ統一公債ヲ發行シ其ノ

日本銀行

利率ナリ四分半又ハ四分トシ四分半利統一公債ナルトキハ従来ノ五分利公債ト「パー」ニテ引換ヘ四分利統一公債ナルトキハ五分利百ニ付百十ノ割合ヲ以テ引換フルコトニシ帝國信用ノ基礎ヲ高メ且内地ニ於ケル公債ノ充溢ヲ避ケ其價格ヲ維持増進スルノ必要アリト云フニ在リ

右審按スルニ統一公債ノ利害概括スルニ凡ソ左ノ如シ

甲　利ノ方

イ　信用ノ基礎ヲ高メ

ロ　内外普通トナルヲ以テ内外放資者ニ利便ヲ與フ殊ニ一定ノ換算率ヲ以テ仕拂ヲ為ストキハ外人ヲシテ安心シテ取引ヲ為サシム

ハ　内地ニ充溢セル公債ヲ海外ニ吐出シ内地ニ於ケル價格ヲ維持増進ス

ニ　政府ハ巨額ノ公債ヲ比較的容易ニ發行シテ鉄道其他生産事業ノ發達ヲ期スルコトヲ得

乙　害ノ方

イ　公債ノ海外ニ流出スルヲ容易ナラシメ正貨払ヲ増加ス

ロ　既往ノ実験ニ依ルトキハ為替相場ヲ以テスル方一定ノ換算率ニ依ルモノニ比シ利益多シ

而シテ之ヲ現況ニ付キ考フルニ海外ニ於ケル四分半利付公債ノ実價ハ九十五円七十二銭五厘四分利付公債ハ八十九円四十四銭一厘ナリ而シテ内地ニ於ケル五分利付公債（軍事整理及五分利ノ平均）ハ九十一円三十六銭七厘ノ実價ヲ有スルヲ以テ同

一ノ利廻リトシテ内地ニ於テ四分半利ヲ発行スルモノトセ

利付公債ノ実價ハ九十五円七十二銭五厘四分
利付公債ハ八十九円四十四銭一厘ナリ而シテ内地ニ
於ケル五分利付公債（軍事整理及五分利ノ平均）
ハ九十一円三十六銭七厘ノ実價ヲ有スルヲ以テ同

一ノ利廻リニテ内地ニ於テ四分半利ヲ發行スルモノトセハ其價格八十四円二十六銭六厘トナリ四分利ヲ發行ストセハ七十七円十六銭五厘トナル今假リニ内地ヨリ海外ニ公債ヲ輸出スルトシ即税（英國ハ千分ノ五、独國ハ千分ノ六、仏國ハ百分ノ一、米國ハナシ）運送費、手數料等ヲ百円ニ付二円ト見込ムトキハ統一公債發行後ハ内地ニ於ケル相場左ノ如クナルヘシ

四分半利ナルトキハ　九十三円七十二銭五厘
四分利ナルトキハ　八十七円四十四銭壱厘

故ニ四分半利ノモノハ五分利ノ額面百円ニ付九十一円三十六銭七厘スルモノヨリハ二円三十五銭八厘多ク價格ニ於テノ有利ナリ又五分利額面百円ニ對シ四分利額面百十四円ヲ費ユルコトヽセハ四分利ノ實價ハ九十六円十八銭五厘ナルヲ以テ五分利ニ比シ價格ニ於テノ四円八十一銭八厘有利ナリ故ニ此計算ヲ以テセハ統一公債ヲ以テ借替ヲ為スコトヲ得ヘシ然レトモ本邦ノ金利ハ歐米ニ比シ一般ニ高率ヲ以テ公債所有者ノ多數ハ低利ノ公債ヲ所擁持スルコト不利ナルヲ以テ統一公債ハ自然歐米市場ニ向

以テセハ統一公債ヲ以テ借替ヲ為スコトヲ得ヘシ然レトモ本邦ノ金利ハ欧米ニ比シ一般ニ高率ヲ以テ公債所有者ノ多數ハ低利ノ公債ヲ所擁持スルコト不利ナルヲ以テ統一公債ハ自然欧米市場ニ向

以テ流出スヘシ然ルトキハ欧米ニ於ケル市價ハ低落シ再ヒ本邦ニ逆流スルノ世態ヲ現出スヘシ故ニ我ハ成ルヘク金利ヲ引下クルノ方針ヲ取リ公債投資者ヲ多數ナラシムルノ措置ヲ為サヽル可カラス

右ノ方法ノ外借替ニ尚他ノ方法アリ五分利公債ヲ所有スルト同一ノ利回リトナルヘキ統一公債ノ額ヲ以テ引替ヲ行フコト是ナリ此計算ニ依ルトキハ五分利百円ニ對シ四分半利ナラハ百八円四十二銭七厘ヲ四分利ナラハ百十九円十一銭五厘ヲ要シ引替フルモノニシテ利率ヲ低下スルノ利益アルモ國庫

二於テハ何等利益アルコトナリ徒ラニ債額ヲ増加シ又發行費等ヲ損失スルモノトス故ニ償還満期借替ノ場合ノ外不得止時機ニアラサレハ採用スヘカラサルモノナリ

以上列挙スル事実ニ依リ統一公債ヲ發行スル利害ヲ衡量スルニ公債政策ヲ以テ経国ノ基礎トセサルヘカラサル今日ノ状態ニ於テハ時機ヲ見テ断然「コンソル」ノ意見ヲ採用シ然ルヘシ蓋シ帝国財政特派員高橋是清氏ハ内外債ノ区別ヲ確立スヘキコトヲ最モ熱心ニ

礎トセサルヘカラサル今日ノ状態ニ於テハ時機
ヲ見テ断然「コンソル」ノ意見ヲ採用シ然ルヘシ
嘗テ帝国財政特派員高橋是清氏ハ内
外債ノ区別ヲ確[illegible]立スヘキコトヲ最モ熱心ニ

主張セラレ政府モ亦其方針ヲ以テ進ミタリト
雖モ右ハ戦時中外債募集ニ関スル権宜ノ
措置ト見ルヘク戦後経営ヲ画策スル今日ニ
於テハ最早其主義ヲ墨守スルノ必要ヲ認メス
然レ共一度統一公債ノ方針ヲ取ルトキハ極力外国
貿易其他ノ方法ニ依リ為替ノ逆輸ヲ防キ正
貨ノ吸収ヲ図ラサルヘカラス此点ハ大ニ注意ヲ払フ
ヘキモノト信ス

統一公債トシテ四分半利ヲ発行スルカ四分利ヲ発行
スルカハ問題ナルモ急激ノ変改ハ一般ノ疑惑ヲ

甚タ易キヲ以テ先ツ四分半利公債ヲ以テ之ヲ統一シ漸次ニ其利率ヲ遞下スルノ方針ヲ取ルヲ要ス」右實行ノ方法及時機等ニ關シテ大体ノ議決定ヲ俟チ更ニ案ヲ具シテ決裁ヲ仰クヘシ

大蔵大臣閣下ト會見ノ際、意見ヲ戰ハシタル件ニ付去ル土曜日ノ晩貴君ト御話致候以来小生ハ日本政府ノ財政問題ニ関シ尚他ノ考慮ヲ費シタルニ就テハ小生ノ案出致セル意見ノ二三ヲ貴君及松尾氏ノ御参考ニ供シタル

政府公債ノ多数ナル種類ヲ作ラルヽコトハ内外ヲ論セス日本ノ信用ニ對シ不利益ナリト存セラルル

戰時財政ノ終了シタル今日ニ於テハ寧ロ現在ノ公債ヲ統一スルコト必要ニ有之而シテ今後ハ尤必要ニ

ニ於ケル如ク英国ニ於ケル「コンソル」米国ニ於ケル千九百年ノ統一公債、仏国ノ「ラント」将又独逸ノ特別整理公債ノ如キ唯一ノ整理公債ヲ発行スルヲ要スヘシト存候

既ニ貴君ニ御話シ申上候通小生ハ外国市場カ九十ニテ四分利公債ヲ引受ケラレ候ニ最近ニ九十五ノ五分利公債ヲ発行セラレタルカ如キハ政府ノ為全然穏当ナラサルコトハ信シ申候併ナカラ貴国政府カ外国市場ニ間モナク再ヒ依頼スルコトヲ欲セサルヨリシテ通貨ノ価格高ク外国ニ於ケルカ如ク低

ノ五分利公債ヲ發行セラルヽカ如キハ政府ノ存
全然穏当ナラサルコトヽ信シ来レハ併ナカラ貴國政
府カ外國市場ニ向モナク再ヒ借款スルコトヲ欲セ
サルヲ以テ通貨ノ價格高ク外國ニ於ケルカ如ク低

利ヲ以テ公債ヲ起スコト実行出来サレハ内地市場ニ於テ
甚必要ヲ充サヽルコトハ我輩ニ至評家致ス然託
政府ハ其信用ノ基礎カ貴國政府ノ證券投
資者ノ各自ノ信用ヲ以テスルモ尚世界ノ市場ニ於
テ減殺スルコトヲモ覚悟ノ上ナラテハ同一ノ経験
ヲ再ヒセサランヲ要スレハ外國投資者ハ内債ニ対シテ
ヲ外債ニ向ヒテ斯ノ如キ多大ノ高價ヲ仕拂フヘシトノ
コトハ豫期セサランヲ要スレハ
本件ニ関シ小生ハ海陸軍人ノ行賞及恩給ニ一億
五千万円迄外ノ内債ヲ発行シ尚又鐵道國有ノ

弍四億円以上ノ公債ヲ發行セシ此等ノ公債ノ全部ハ小生ノ承知スル所ニ依レハ五分利付公債ニ係ラルハ貴國政府ノ約言ハ貴國内國市場カ吸收シ得ルヨリハ非常ナ多額ノ政府負債額ヲ作ルコトタルヲ明ニ承知致候得ハ故ニ貴國五分利付内債ハ其價格ノ上ニ於テ非常ニ困難ヲ感スル儀ト被存候此事ハ公債其物カ極良キモノナリト考ヘサセサル故ニアラスシテ寧ロ小生等既ニ指示致シタルカ如ク貴國投資者カ所持ニ餘ルヨリハ遙カニ巨額ノ供給アルニ因ル儀ト存候

貴国政府ノ右約言ノ外自余ノ如キ発達拡張スル国民ノ政府ハ絶ヘス資金ノ供給ヲ受クヘキ必要ヲ生スヘキハ理ノ当然ト存ス海陸軍ノ目的ニ対シ若干資金追加ノ要求アルヘキハ暫ク措テ問ハス政府カ遠カラス日本全部ノ鉄道組織ヲ運用スルノ持主トナルヘキ事実ハ商工業及農業ノ改良発達其他ノ必要ニ依リ鉄道組織ノ継続的拡張ヲ為スヘキ義務ヲ政府ニ負ハスヘシト存セラレ候

斯クシテ日本ハ生産的目的ノ為常ニ公債ヲ増加

故ニアラスシテ寧ロ小生カ既ニ指示致シタルカ如ク貴国投資者カ所持シ能フヨリハ遥カニ巨額ノ供給アルニ因ル儀ト存候

スヘキコトハ容易ニ豫見致サレ候又今日ハ貴国政府ハ從テ這般ノ事カ甚信用ノ基礎ヲ害スルコトナク成功シ得ルカ又絶ヘテ必要ナル商工業資本ト非常ナル程度ニ於テ競争ヲ生セサラシムルヲ得ルカヲ最モ真面目ニ考慮セラルヘキ時機ト存候

故ニ小生ハ貴国政府カ原則トシテハ元利金ヲ円ニテ仕払ハレ尚又一定ノ相場ニ依リ磅、弗、法、又ハ馬克ヲ以テ外国ニ於テ支払ハルヘキ四分利付又ハ四分半利付統一公債ヲ作ラルヽコト機宜ニ適セラルヽコトヽ存候貴国現在ノ公債全部ハ漸次ニ右統一公債

テ仕払ハレ尚又一定ノ相場ニ依リ磅、弗、法、又ハ馬克ヲ単ニ外国ニ於テ支払ハルヘキ四分利付又ハ四分半利付統一公債ヲ作ラル、コト機宜ニ適シタルコト、存ル尚我国現在ノ公債全部ハ漸次ニ此ノ統一公債

ニ整理シ爾后公債発行ノ必要アルトキハ此統一公債ニ限リ発行スルコトヲ必要ト存ス鉄道国有法ニ依リ買収サル、鉄道ノ株券所有者即チ同法ニ依リ五分利付内国債ヲ受取ルヘキ者ニハ適当ナル時機ニ於テ統一公債ヲ受取ルヘキコトヲ申出スコト、シ若シ四分半利付統一公債ヲ作ルコト決定サルヘキトキハ証券ト証券トヲ引替ヘ（註 既存旧証券百円ニ対シ新証券百円ノ比）若シ四分利付統一公債発行サル、トキハ統一公債百十円ト引替フコト、スルヲ要シ内地ニ市場ヲ有スル四分半利付公債ハ五分利付公債

以上ノ價値ヲ有シ又内國四分利公債ノ百十円カ五分利付内債百円以上ノ價値ヲ有スル儀ニ付テハ疑無之ハ鉄道株券所有者ノ一部カ法律ニ定メラレタル如ク五分利付内債ヲ受取ルコトヲ主張スルニ於テハ或者ハ直チニ甚タ多クノ内債ヲ市場ニ賣却スヘキヲ以テ銀行者ハ之ヲ買入ルヽノ機会ヲ得有利ナル商買トシテ借替ヲ実行スヘクハ以上ノ提議採用ニ依リ生スル大ナル利益ハ内國市場ニ於ケル國債ノ高價ヲ生スル國鉄及外國公債ニ比シ内國債ノ比較的低價ナルコトヲ改正シ貴ヘ

國政府ノ信用ヲ出来ル丈ケ最高ノ基礎ニ置クニアリト存ス

右提議セラレタル整理公債ハ常ニ其最モ需要サルヽ所ニ集注スヘク斯クテ日本市場カ通貨ヲ需要スルトキハ內地ニ於ケル公債ハ直チニ外國ニ流出スヘシ這般ノ機能ハ如何ナル自由ヲ與フルモ內國債ヲシテハ同一ノ場合ニ至ラサルコトヽ存ス又之ニ反シテ日本放資者カ公債ヲ所有セシト擬スルトキハ外國市場ニ於ケルヨリハ多額ヲ仕払フトキハ公債ハ內地ニ復帰スヘシト存ス

以上ノ提議採用ニ依リ生スル大ナル利益ハ內國市場ニ於ケル通貨ノ高價ヨリ生スル困難及外國公債ニ比シ內國債ノ比較的低價ナルコトヲ避ケ貴ハ

小生ハ日本ノ信用カ最高ノ基礎ニ置カルヽコトヲ深ク希望シ且ツ今日カ国家財政ノ問題ニ関シ最モ真面目ナル考慮ヲ要スルノ時機ナルヲ思ヒ愚存冗多ニ書キ並ヘ申候松尾氏及貴君カ適當ト御考ヘアラハ此書状大蔵大臣閣下ヘ御差出シ下サルモ差支無之候匆々敬具

千九百六年四月[illegible]　ジヤコブ、エイチ、シツフ

高橋副総裁殿
侍史

高橋副總裁殿　使

三十七年十二月十五日

此案ニテハ甚所ノ使用サレル疑いあれし中村田中両氏ニ協
取ツリ

一日本興業銀行ヨリ日本銀行ヘ出願ノ時ニハ政府ハ國債及ヒ國庫債券ニ限リ公定相場ヲ以テ賣却又ハ買入レラルル事

一前項ノ公定相場ニ關シテハ其時々日本銀行ノ指圖ヲ受クル事

一日本興業銀行ハ取引所及組合ニ屬スル一切ノ金銭有價証券ヲ担保トシテ預リ公定相場ノ決定、賣買ノ方法組合ノ組織等ニ關シ措置ヲ為ス事

一、日本興業銀行ハ取引所ノ担保物ノ賣
價ヲ標準トシテ國債又ハ国庫債券ヲ
賣渡シ又實價五十万円マテハ国債又ハ
国庫債券ヲ抵当トシテ貸金ヲ為ス事
但日本興業銀行ノ金融ノ許ス場合
ニハ国債又ハ国庫債券ヲ買入ルル事

一、日本興業銀行ハ大阪ニ支店ヲ設置ス
ナルヘシ
ル事

一、其創業資金トシテ三ヶ年ヲ限リ日本
銀行ハ五分ノ利率ニテ国債又ハ国庫

一日本興業銀行ハ大阪ニ支店ヲ設置
ル事
其創業資金トシテ三十年ヲ限リ日本
銀行ハ五分ノ利率ニテ国債又ハ国庫
債券担保ニテ日本興業銀行ニハ貸付ヲ
為ス事

讀ス事
讀者點等ハ二三ノ西大興學教授ニ讀法

草稿

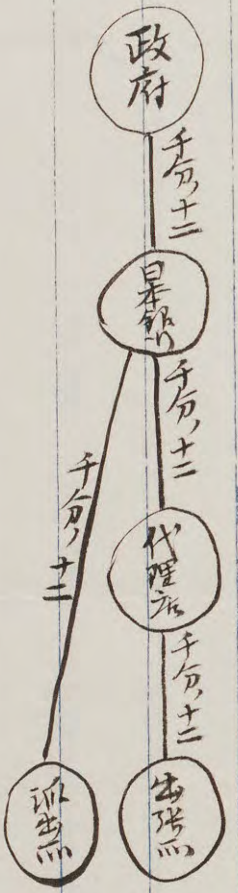
政府ヨリ受クル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ
千分ノ七　拂込金ニ當ツ
千分ノ十二　引受申込ニ當ツ

代理店ニ与フル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ
千分ノ五　千分ノ二　拂込金ニ當ツ
千分ノ十　千分ノ二　引受申込ニ當ツ

出張所派出所ニ与フル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ
千分ノ五　拂込金ニ當ツ
千分ノ十　引受申込ニ當ツ

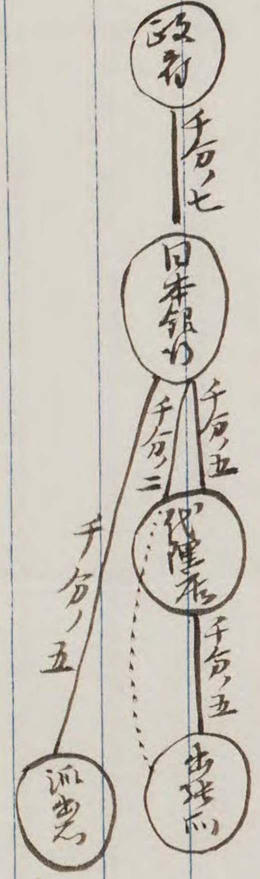
△保証金ニ關シ

△保証金ニ係ル


政府
千分ノ十二
日本銀行
千分ノ十二
千分ノ十二
代理店
千分ノ十二
出張所
派出所

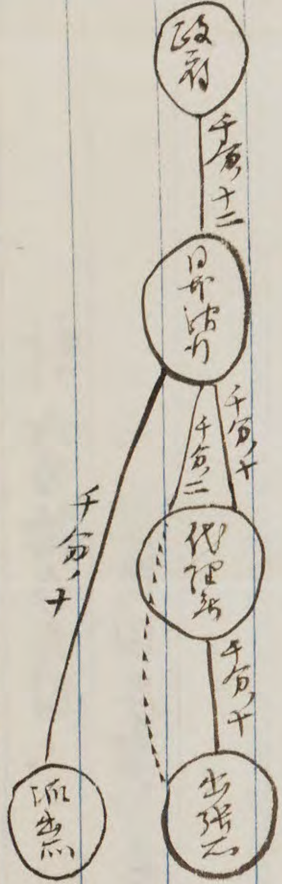
仮リニ預託者ヲ半額トスルトキハ
政府ノ払フヘキ額　六万円

△払込金ニ係ル


政府
千分ノ七
日本銀行
千分ノ五
千分ノ二
千分ノ五
代理店
千分ノ五
出張所
派出所

仮リニ現金払込ヲ三割トスルトキハ
四拾弐万円

△引当申込ニ係ル


政府
千分ノ十二
日本銀行
千分ノ十
千分ノ二
千分ノ十
代理店
千分ノ十
出張所
派出所

仮リニ引当申込ヲ七割トスルトキハ
百六拾八万円

即チ

日本銀行

計　弐百拾六万円

弐億円ニ対シ　壱分〇八毛ニ当ル

第二案

政府ヲ受クル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ

千分ノ七　拂込金ニ當ツ

千分ノ十　引當申込ニ當ツ

代理店ニ与フル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ

千分ノ五　千分ノ二　拂込金ニ當ツ

千分ノ八　千分ノ二　引當申込ニ當ツ

出張ノ派員ニ与フル分　千分ノ十二　保証金ニ當ツ

千分ノ五　拂込金ニ當ツ

千分ノ八　引當申込ニ當ツ

計金百八拾八萬円（但シ前顕割合ニヨリ計算ス）

參照

國庫債券手數料割合調

		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
政府ヨリ受クル率	保証金	百分ノ二	百分ノ三	百分ノ三	百分ノ一、五	百分ノ一、五
	割払金	千分ノ四	千分ノ四	千分ノ十三	千分ノ七	千分ノ七
代理店ヘ仕払率	保証金	百分ノ二	百分ノ三	百分ノ三	千分ノ十五	千分ノ十五
	割払金	千分ノ三	千分ノ三	千分ノ十（外ニ融通千分ノ二）	千分ノ五（仝上千分ノ二）	千分ノ五（仝上千分ノ二）
本支店出張所ノ派出所代理店ノ出張所ヘ仕払率	保証金	百分ノ二	百分ノ三	百分ノ三	千分ノ十五	千分ノ十五
	割払金	千分ノ二	千分ノ二	千分ノ十	千分ノ五	千分ノ五

日本銀行

國庫債券償還明細表

一第一回國庫債券現在債額　九六、九七七、三五〇円

内

四十年度豫算ヲ以テ償還額	一五、一五〇、五一六円
四十年度一般会計繰入金仝上	三三、三三二、三九四円
仝上公債募集金ヲ以テ返償	四八、四九四、五四〇円

備考　四十年度償還額ハ手続未濟ニ付豫算ト共ニ四十一年度ニ繰越タリ

四十年度ニ於テ公債募集金ヲ以テ償還スヘキ高ハ四千八百餘万円ナルモ豫算ノ剰餘アルヲ以テ約二千萬円ノ借換申込アレバ本年度ハ公債募集ノ必要ナキ見込ナリト

明治　年　月　日（　）

四十一年度國債償還明細表

國債種類	金額
旧公債	二一九、四五五円
海軍公債	二、四五七、二八二
軍事公債	一、二八七、三〇〇
台湾事業公債	七〇〇、〇〇〇
國庫債券	八一、八二六、八三四
計	八六、四九〇、八七一

内

一般会計繰入金支弁	三七、九九六、三三一
公債募集金支弁	四八、四九四、五四〇

明治　年　月　日（　）

英、佛、露三國ニテ発行

倫敦市場発行ノ分

発電月日	名称	金額	利率	発行價格	償還期限	應募成績
一月七日	印度政府公債	五、〇〇〇、〇〇〇磅	三、五分	九九	一九三一年後	申込五倍ニ達ス
〃十一日	喜望峰政府公債	一、〇二〇、七〇〇	三、五	九三、五	―	不結果 下受人九割負担
〃廿三日	「トランスバール」大蔵省証券	五〇〇、〇〇〇	―	―	六ヶ月	―
〃三十日	「コッペーヘーゲン」市債	二、二〇〇、〇〇〇	四	九五、五	―	申込五倍ニ達ス
二月十六日	加奈太政府公債	三、〇〇〇、〇〇〇	三、五	額面	一九五〇年	好結果
三月三日	「サルバドル」共和國公債	一、〇〇〇、〇〇〇	六	八六	―	―
〃四日	「ボルガブーグルマ」鉄道社債	三四、九二〇、〇〇〇法	四、五	八七、五	一九一一年後	―
〃十三日	「ニユー、サウス、ウエルス」公債	三、〇〇〇、〇〇〇磅	三、五	―	一九五〇年	不結果、 下受人八割負担

三月廿四日	「モスコー」市債	一、八八九、五六〇磅	五	八七、五	一九五七年	—
〃 廿五日	支那鉄道公債	一、一〇〇、〇〇〇	五	九八、五〇	—	申込三倍ニ達ス
四月十一日	倫敦市債	二、七五〇、〇〇〇	三、五	—	一九二九年後	申込四十倍ニ達ス
〃 廿五日	「ペンシルバニア」鉄道社債	四、〇〇〇、〇〇〇	四	九六	一九四八年	申込十倍ニ達ス
五月四日	南ナイゼリア政府公債	三、〇〇〇、〇〇〇	四	九九	四ヶ年	—
〃 〃	倫敦水道公債	一、五〇〇、〇〇〇	三	—	—	—

紐育市場発行ノ分

称	金額	利率	発行価格	償還期限	応募成績

郵報

紐育市場發行ノ分

發電月日	名称	金額	利率	發行價格	償還期限	應募成績
一月十日	「シカゴ、ロックアイランド」鉄道会社々債	九、〇〇〇、〇〇〇弗	四分	｜	｜	｜
〃 〃	「イリ井」鉄道社債	三、二〇〇、〇〇〇	｜	｜	｜	｜
〃 十三日	紐育中央同上	三〇、〇〇〇、〇〇〇	｜	｜	｜	申込九倍ニ達ス
四月四日	「イリ井」鉄道社債	一〇、五〇〇、〇〇〇	六	｜	三ヶ年	｜
〃 廿三日	「ペンシルバニア」鉄道同上	二〇、〇〇〇、〇〇〇	四	｜	四十ヶ年	申込廿五倍ニ達ス

~~独華両國市場發行~~

伯林市場發行ノ分

發賣月日	名称	金額	利率	發行價格	償還期限	應募成蹟
一月七日	普魯西政府公債	―	初十年四分 次五年三、四 後三、七	―	―	―
三月廿五日	支那鉄道公債	一、九〇〇、〇〇〇磅	五	九八、三四	―	―
四月三日	独逸帝國公債	二五〇、〇〇〇、〇〇〇馬	四	九九、五	十年据置	―
〃	普魯西整理公債	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四	九九、五	同上	―
〃	同上國庫債券	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四	―	五年	―

日本銀行

日本銀行

明治　年　月　日

一、勧業銀行ノ債券等ヲ日本銀行ノ担保品ニ加ヘントスルコトハ法律ノ解釋論トシテ見レハ甚タ困難ナルコトナリ元來國債ニモアラス又政府ノ保証モナキ諸會社銀行ノ株券債券ヲ担保トシテ貸付ヲナスコトハ日本銀行ニハ出來難キコトナリ日本銀行條例第十一條及第十二條ハ明ニ日本銀行ノ営業範圍ヲ限定セルヲ以テ此ノ如キモノヲ担保トシテ貸出ヲナス

明治　年　月　日

コトハ嚴格ニイヘハ営業範圍外ニ亘ルコトヽイフヘケレハナリ

二、日本銀行ニ於テ明治十八年及其後ニ正金銀行日本鉄道等数種ノ株券ハ條例第十一條ニ所謂政府ノ保証アル各種有價証券ト見做サレテ抵当品ト取扱フコトヽナレリ当時此等ノ会社銀行カ政府ノ補助ヲ受ケ政府ノ監督ノ下ニアリタル故ニ斯ク見做サレタルモノナルヘシト雖モ嚴密ナル意義ニ於

テ此等ノモノヲ政府ノ保証アル証券トイフヘカラサルモノナルヘシ

三、又二十三年及其後ニ九州、山陽其他多クノ鉄道会社ノ株券ヲ手形ノ担保トシテ貸出ヲナスコト、ナレリ此事ニツキテハ定款第二十四條ニヨレハ商品又ハ商品預証ヲ質入シタルトキハ一人前ノ署名捺印ト見做シ割引ヲナスコトヲ得ルノ規定モアルコトナレハ之ヲ抵当トシテ貸付ヲナスニ

明治　年　月　日

アラス手形ノ担保トシテ其ノ手形ノ割引ヲナスハ差支ナキコトナリトノ議論モアルヘケレド株券等カ商品トイフヘカラサルハ明白ノコトナルノミナラス此定款ノ場合ハ商業手形カ先存在シテ後ノコトニシテ約束手形ヲ作成シテ之ニ担保ヲ付スルハ實質上貸付ト何等區別スヘキ理由ナキモノナレハ法律ヲ此ノ如ク解釋スルハ甚タ妥當ナラサ

明治　年　月　日

ルモノトイフヘシ

然ルニ既ニ此等ノモノヲ担保品トシテ貸出ヲナシ来レル以上ハ勧業債券ヲ加フルモ差支ナキコトナラスヤトノ議論アルヘシ元来日本銀行カ鉄道株券等ヲ担保トシテ貸出ヲナスコトヽシタルハ全ク一時ノ権宜ニ出テタルモノナリ当時手形取引盛ナラス国債ノ額モ少ク加フルニ興業銀行如

キ有價證券担保ノ金融機関未タ成立セサリシニ特ニ二十三年ノ如キハ金融逼迫シ極メ大ニ困難セシヲ以テ此ノ困難ヲ救ハンカ為メ止ムヲ得ス開カレタル便法ニシテ興業銀行設立セラレ其ノ活動ヲ見ルニ至ラハ此等ノ貸出ハ同行ニ移ス考ナリシハ當時ノ閣議書類ニ徴シテ明ナル所ナリ

今日ハ手形取引モ往日ニ比シ著シク発達シ国債ノ公式

間ニ存スルモノモ多ク之ニヨリ十分金融ノ道アラカフルニ興業銀行ノ業務ニ着々発展シツヽアルコトナレハ今更ラ此便法ヲ擴張スルノ必要ナカルヘシトイフヲ得ヘキナリ

五、更ニ一歩ヲ進メテ之ヲイヘハ今日ハ最早此等一時ノ便法ヲ全廃シ本来ノ正道ニ復シテ然ルヘキノ時機ニ到達シタルモノトモ見ルヲ得ヘキナリ實ハ鉄道国有以来甚敷ハ類ヘル

減少シタレ𪜈今日尚日本銀行カ二三ノ實際ソレホトニ多クハ利用シ居ラレサル此種担保品ノ存スル故ニ一層此等ノ議論ヲ生セシムル氣味アルコトナレハ之ヲ變則ト認ムル以上ハ全廢スルヲ可ナリトスヘキカ如シ

六、法律ノ解釋ニ於テハ此ノ如キ有價證券ヲ日本銀行ニテ担保トシテ貸出シナスコトハ變則ノ便法タルコトヲ承

認ムルトスルモ外国ノ中央銀行ヲ見ルニ佛蘭西銀行ハ獨乙帝国銀行其他ニテハ種々ノ株券債券ヲ担保トシ貸出シナスコトヲ許シ其債券中ニハ不動産抵当銀行ノ債券ヲモ加ヘ居ルモノ少カラスアリ何等ノ差支ナキヲ以テ見レハ我国ニ於テモ法律ヲ改正シ此ノ如クスルヲ可トストノ議論アルヘシ欧州諸国ノ實例ニツキテ之ヲ見ルニ種々

ノ株券債券特ニ不動産抵当銀行ノ債券ヲ担保トスル貸出ヲナスモノ少カラサレ𪜈其間ニモ我邦ノ如キ制度ヲ採リ居レル国モナキニアラス英国ニ於テハ不動産抵当銀行ナケレハ論スルニ及ハス其之アル白耳義ニ於テハ中央銀行ニ於テハ其ノ貸出ニ関スル規定ハ全ク日本銀行ト同一ニシテ種々ノ株券債券ヲ担保トスル貸出ヲナシ

居ラス同国ニハ既ニ不動産抵當銀行アリテ債券ヲ発行シ居ルニ関ラス同行ノ担保品中ニ之ヲ加ヘ居ラサルコトハ頗ル注意スヘキコトナリ独逸帝国銀行ニテハ種々ノ株券債券特ニ不動産抵當銀行ノ債券ヲ担保トシテ貸出ヲナセトモ兌換券発行ノ保証トシテハ通常三名少クトモ二名ノ確實ナル支払義務者記載アル手形並ニ

二名以上ノ確實ナル支払義務者ノ記載アル小切手ニ限リ其他ノモノヲ保証ニ供スルコトヲ許サヽルハ是亦大ニ注意スヘキ所ナリトス

七、欧洲諸国中央銀行ノ中ニ就キテ英国ハ特別ノ事情アルヲ以テ別トシ經濟上ニ於テ先進タル佛獨白ノ三國中央銀行ニ付キテ之ヲ考フルニ佛蘭西銀行ハ創立

英蘭銀行ニツキテ古ク其ノ規定ニ不備ノ點少カラス例ヘハ兌換券ノ發行ニ對シテ單ニ發行總額ヲ定ムルノミニシテ何等正貨又ハ保証ヲ以テ一般其他ノ債務以上ニ之ヲ確保セサル如キ往々ニシテ模範トシ難キモノアリ往年松方侯カ「レオン・セー」氏ニ中央銀行ノコトヲ問ハレタルトキ同氏ハ佛蘭西銀行ハ慣例因襲ニヨリ遺リ